

平成29年度第3回小牧市男女共同参画審議会会議録

1 日 時：平成30年2月16日（金）午前10時～

2 場 所：小牧市まなび創造館 研修室2

3 [出席者]

委 員：代田義勝、乙部由子、松田照美、宮崎康弘、平林克之、大鹿幸子
近藤正司、伊藤幸子、伊熊啓人

事務局：高木教育部次長（社会教育担当）、松永館長、坪井係長、間野主事

[欠席者]

籠橋幸子

[傍聴者]

なし

4 議 題

(1) 平成29年度小牧市教育委員会基本方針の点検評価について

(2) 第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取組内容について

5 その他

1 開会

[松永館長]

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまから平成29年度第3回小牧市男女共同参画審議会を開催いたします。

本会議の傍聴の申し出はございませんでした。

なお、欠席委員につきましては、お1人、事前に連絡をいただいております。

また、本日の会議は公開としており、本会議の議事録は情報公開コーナー等において公開いたします。

まず、資料の確認をいたします。

事前に配付している、次第、資料1の点検評価シート、資料2のハーモニーⅢ重点目標管理シート。資料1につきましては、本日、机上に差し替え資料を用意しております。内容につきましては、講座の定員を追記させていただいております。

さて、本日は小牧市教育振興基本計画における教育委員会基本方針の点検評価及び第3次小牧市男女共同参画基本計画における重点目標の来年度の取り組み内容について御審議をいただきたいと思っております。

なお、本日の会議は11時30分を終了時間とさせていただきたいと思っております。限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見をいただきますようお願いを申し上げます。

初めに、代田会長より御挨拶をお願いいたします。

2 挨拶

[代田会長]

おはようございます。

本日は寒い中、また早朝より御参集いただきましてありがとうございます。

事務局から事前に送っていただいた資料に目を通しておりまして、広報広聴課のところで、「市が目指す男女共同参画社会のイメージを周知し、普及させる」という文章が入っておりました。

市が目指す男女共同参画社会のイメージというのは、とても大事だと思います。木を見て森を見ずという言葉がございますが、どうしても関係各課の数値目標というところに目が行きがちで、これはこれでとても大事なことですが、一方で、どんな男女共同参画社会の森を目指すのか、あるいはそういった森がなぜ必要なのかということ、これもあわせて審議会では意見を交わして議論を深めていくべきテーマではないかと思っております。

時間があればそういったことも議論したいと思っております。

本日は2つ議題がございます。

1つが教育委員会基本方針の点検評価、もう一つは基本計画の重点目標の取り組み内容について、積極的な御意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

[松永館長]

ありがとうございました。

それでは、議題に移ります。

代田会長、取り回しをお願いいたします。

3 議事

(1) 平成29年度小牧市教育委員会基本方針の点検評価について

[代田会長]

平成29年度小牧市教育委員会基本方針の点検評価について、事務局から、説明をお願いいたします。

[松永館長]

それでは、資料の1をごらんください。

まず、男女共同参画講座の実施ということで、教育振興基本計画の施策の21に該当するものでございます。

平成29年度におきましては、ハーモニーⅢの基本目標をもとに4つに体系化をした24講座を実施いたしました。

まず1つは、男女共同参画意識の向上のための男女共同参画講座を15講座実施いたしました。

その内容については、表のとおりでございます。

それぞれ講座の回数、定員、受講者数、託児の人数を記載させていただきました。

2点目に、男性の家庭生活への参画のための男性支援講座を3講座実施いたしました。

次に、女性の自立、再就職支援のための就労支援講座を4講座実施いたしました。

最後に4点目ですが、働きやすい環境づくりの啓発のための企業啓発講座を2講座実施いたしました。

次に、課題ですが、男女共同参画に特化した講座であることから、受講者数が伸び

悩みました。それにつきましては、募集方法の工夫が必要であると考えております。

次に、企業啓発講座におきましては、参加申込者が少なかったということから、1講座開講することができませんでした。これにつきましては、開催時期や日時について検討する必要があると考えております。

次に、託児の需要が高かったことから、託児枠が足りずに、本来対象としている人に受講してもらえなかったという事態が生じました。

今後の取り組みの方向性ですが、引き続き対象を絞って講座を実施したいと考えております。

次に、2枚目でございます。

親子スポーツ教室の開催ということで、教育振興基本計画の施策の26に該当するものでございます。

子供とその両親を対象に11講座実施いたしました。

1つ目は、2歳から3歳までの未就園児とその保護者を対象に、親子ピクス教室を2講座実施いたしました。

次に、3歳から6歳までの未就学児とその保護者を対象に、親子わくわく体操教室を3講座実施いたしました。

次に、5歳から小学1年生とその保護者を対象に、親子サッカー教室を3講座実施いたしました。

次に、4歳から小学1年生とその保護者を対象に、親子テニス教室を3講座実施いたしました。

課題につきましては、応募組数に対し定員が少なかったということで、より多くの方が受講できるよう、定員をふやすなどの検討が必要であると考えております。

今後は、引き続き年齢に応じた講座を実施したいと考えております。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

〔代田会長〕

ありがとうございます。

親子スポーツ教室のほうは盛況ですけれども、男女共同参画のほうは参加者を集めるのに苦労したという状況でしょうか。

委員の皆さんから御意見、御質問等ございましたらお願いします。

〔松田委員〕

男女共同参画講座の託児のことについて伺います。

託児の需要が高かったということについて、託児枠が足りなかったといった課題が出ておりますが、小牧市の託児というのは、年齢は1歳から未就学児ですか。

また、定員はどのぐらい設けていますか。

[松永館長]

まず、対象の年齢ですが、1歳から未就学児になります。

定員につきましては、講座等によって違いはございますが、3人から5人が多くなっております。

[代田会長]

3人という場合もあるのですか。

[松永館長]

はい。

[松田委員]

私たちがグループ活動で託児を設けております。そうしたときに、若いお母さんたちから、1歳からというところが多いので、学習したいけれど、1歳になる前の育児休業期間中に利用できないという御意見が多々寄せられました。

それともう一点、定員枠が少ないように感じます。

[代田会長]

ゼロ歳児から預けたいということですね。

[乙部副会長]

今、ゼロ歳児という意見が出ましたが、託児をつけるにしてもお金がかかってくると思います。

この託児は無料ですか。

[松永館長]

受講者には無料で利用いただいています。

[乙部副会長]

そうすると、予算のこともありますので、例えばゼロ歳児のみ幾らか取ることも一つの方法だと思います。その辺も事前に幾らか予算として上げておいて、そういう方たちまで受けられる形にすることも、今後の課題として考えられるのではないかと思います。

[代田会長]

今後、検討の余地はありますか。

[松永館長]

託児の有料化につきましては、すぐに有料ということではなく、他市の状況調査をして、検討していきたいと考えております。

[代田会長]

市民にしてみれば、当然無料のほうがありがたいわけですが、予算的に難しいということになれば、有料化も含めて御検討いただければと思います。

そのほか何か。

[宮崎委員]

受講者数はこのように出ていますが、いくつもみえている方が必ずいると思います。分析をして、新たに来られた方がどれぐらいいるのかということを経験としてはとっていくといいと思いました。

もともと興味のある人が参加されていると思いますが、例えばそういう方が友人を呼ばれて、新たに参加した人は何人ぐらい増えたのか。やはり広げることが大事だと思いますので、そういった統計もとられるといいのではないのでしょうか。

[代田会長]

いかがですか。

[松永館長]

それぞれ講座に参加されている方の中には、複数参加されているというケースは多いと見受けられますので、新たに受けられたということ把握することは、今後の講座を計画する上でも有効かと思っておりますので、今後、そういうことも把握したいと思います。

〔代田会長〕

以前はみらい塾という形で地域における男女共同参画推進に向けての啓発等をしてきましたが、今回は、大きく4分野、そのうちの男女共同参画、男性支援、就労支援については以前から継続していますが、新たに企業啓発を行っている。ここが、今年度から重要な講座になってきている。

結果としては、残念ながら2講座中の1講座が不開講というような形になってしまいましたが、これはどれぐらい集まったのですか。

それから、不開講ということですが、何人未満だったら不開講となった、あるいは、集まりが悪かったから1つにまとめてしまったということではないのですね。

〔間野主事〕

不開講となった講座ですが、最終的には9名の方に応募をいただきました。申し込み少数のためとございますが、講師を依頼していた方から、少人数であることをお伝えしたところ、それでは実施ができないと連絡がありまして、結果やむを得ず開催を中止せざるを得ないという状況になりました。

こちらとしては少人数でも実施したい、魅力的な内容だと考えておりましたが、講師側からNGが出たことで、このような形となっております。

〔代田会長〕

大人数じゃないと運営できないような講座だったのですか。

〔間野主事〕

内容といたしましては、決してそんなことはありませんが、講師に思うところがあったのかもしれませんが。

〔代田会長〕

私も聞いてみたいと思うような講座名でしたが、残念でした。そのほか何か。

〔近藤委員〕

この表の見方なのですが、回数と受講者というものがあるのですが、受講者というのは1回にこれだけみえたのか、延べ人数なのかどちらなのですか。

〔間野主事〕

こちらは1回当たりの講座を受けている人数となります。

〔近藤委員〕

1回にこれだけ見えたということですか。

〔間野主事〕

当然ばらつきはございますが。

〔近藤委員〕

どうして今お聞きしたかといいますと、表の男女共同参画普及員の講座ですが、私も参加していましたが、5回で46人となっていますが、実際、普及員は51名見えるはずですが、今言われる数字からすると全然当てはまらないのですが。

〔間野主事〕

普及員の講座につきまして、定員を当初は普及員の人数として51名を想定しておりました。

普及員の方以外にも一般の申し込みの方へも募集をさせていただきました。その中で、全5回実施をさせていただいた中で1回以上参加された方が、46名みえましたので、46と記載しております。

〔松永館長〕

申し込みされた方が、5回の講座に対して46名の申し込みがあったということです。欠席等ばらつきがありますが。

〔伊熊委員〕

合計も延べ人数も出したほうがいいかもしれませんね。

〔近藤委員〕

この表のままだとわかりにくいですね。

〔代田会長〕

両方数字を上げるといいかもしれないですね。
申込者数は書いておいて、あわせて実績という形で。
実際に各回に出席した人数や、その合計も記載する。

[高木教育部次長]

今会長がおっしゃられたとおり、定員に対してまず手を挙げた人数、これが一つの見方になっています。

これは主催者側として、どれぐらいニーズがあったのか比較ができる。もう一つ、実際現場に足を運んだ方が延べ何名みえたのかということがあると、よりわかりやすいということですね。

[近藤委員]

それは必要だと思います。この審議している内容からすると、男女も含めてあったほうが良いと思います。

[高木教育部次長]

極論をいえば、男女の比率や年齢というところも出せればベスト、あとはこの表上でどこまでそれを表現するかということかと思いますが、今回、このシートに対して議論いただき、御意見をいただくことが、一つの趣旨でございますので、審議会の中での委員の皆様からの御意見として頂戴してまとめていきます。

また、教育振興基本計画全体の評価をする委員会を今後立ち上げていきます。男女共同参画についてはこの審議会において御意見をいただいて、それを教育振興基本計画の評価委員に提出していくという形になります。

[代田会長]

そのほかよろしいですか。

[大鹿委員]

例えば同じ講座でも①、②という2種類ある講座が幾つかありますが、これは全く同じものを2回やるのか、別物なのかということ。別物であるならば、人数が極端に減らないようなネーミングの工夫なども考えられるのかと思いました。

例えば、時事問題を知るための講座であれば、「パート1 ○○について知る」、「パート2 ××について知る」とすると別物であるということがわかるので、両

方とも出てみようとなるかと思うのですが、この辺どうでしょうか。

[松永館長]

これは同じ講座を、時期をずらして開催をしております。

[大鹿委員]

同じですか。

そうすると、もし1回目がよかったという口コミが広がれば、2回目は、率がふえてきそうですが。

[伊熊委員]

タイトルは同じだけど、中身は違うということではないのですね。

[間野主事]

時事問題を知るための講座は、月に1回開催をさせていただいております。そのとき話題になっているものを講師に読み解いていただくという講座になっておりますので、毎回違う内容が話されます。子育てコーチング、働きたい女性の労働セミナーにつきましては、前期と後期という形で、受講者の方が都合のいい時期に受けていただけるように、同じ内容で開催をさせていただいております。

[乙部副会長]

親子に関するものは、応募者が多く盛況なイメージがありますが、盛況なものと同様に盛況じゃないものというのを、来年度どうするのか。施策に準じて、盛況であってもなくても、来年度も開講するのかということを伺いたいと思います。

[代田会長]

男女共同参画の講座も親子スポーツのほうも含めてですね。

[乙部副会長]

そうですね。

特に親子だと定員より応募者がすごく多いので、定員を来年度ふやすだとか、2講座を3講座にするといったことは考えられるのかどうか。

〔間野主事〕

まず、男女共同参画のほうになります。基本的な考え方といたしましては、今後の取り組みの方向性のところで、意識改革を促すためには、継続的に取り組んでいくことが必要であると事務局では考えておりますので、集まらなかったものにつきましては、内容を一度精査して、どうしたらよいかということを検討した上で、基本的には趣旨からぶれることなく、男女共同参画を普及するための講座事業というのは継続していきたいと考えております。

親子スポーツにつきましても、多くのものは受講定員を満たしておりますが、見直しを図りながら、実施していきたいと考えております。

〔代田会長〕

私の個人的な要望としては、やはり4体系の中の企業啓発講座、今回は残念ながら2講座中1講座しか開講できませんでしたが、魅力的なものを、たとえ受講者が少なくてもやっていただける講師の方をお願いしてやっていただきたいと思っております。

〔平林委員〕

今の企業啓発講座の2講座のうち取りやめた講座ですが、このネーミングを見ると、企業向けに感じるもので、商工会議所の所報を使ったりして企業向けに案内を流すという方法も一つあるだろうと思っておりましたので、御提案をさせていただきます。

〔間野主事〕

実は今年度お願いさせていただきました。

来年度もお願いをしたいと思っておりますので、その際はどうぞよろしくお願ひいたします。

〔伊熊委員〕

先ほど趣旨ということですが、結局ターゲットをどこにおくかということがあると思います。

定員が40人で、40人か50人参加したということではなく、絞った形で事務局が思ったとおりに、皆さんに来て勉強していただいたということが大切な気がします。

〔代田会長〕

他の自治体の男女共同参画センターへ、以前は別の委員会で年に1回行っていまし

た。そういったところの話を聞いていると、多くの人数を集めてやるような講座は、今は、成立しにくいということです。それで、細かな市場を対象に開く、5人でも10人でも、ピンポイントでニーズがあるところを拾って開いていく、そういう講座になってきているのではないのでしょうか。

だから、そういう考え方でもいいのではないかと思います。たくさん来たからいいという発想ではなく、そういったことも今後少し考えていただければと思います。

[宮崎委員]

私、御案内をいただいたときに、実は女性社員に案内をしたのですが、就業中の時間ではなかったですか。

[間野主事]

そうです。

[宮崎委員]

そのとき、業務命令として行けばいいのかという話や、何か仕事が入ったときはどうすればいいのかという話がありました。

聞きに行きたいという女性がいたのですが、業務命令であれば時間中でも行けますが、それ以外では、自分で行きたいと思っても行きづらいということを言われましたので、時間等も考えていただきたいということは思います。

そういったことを配慮いただけると、受講者も増えるのではないかと思います。

[松永館長]

今おっしゃられたとおり、この講座につきましては金曜日の午後2時から3時半、平日であるということも影響したということで、それを課題として開催時期の検討が必要とさせていただいております。

[伊藤委員]

私、親子ビクス教室と親子わくわく体操教室に、子供を連れて行っていました。こういう教室を開催しているときに、企業啓発講座などのパンフレットを配ったりする。募集方法に工夫が必要であると書いてあるので、盛況なほうの教室に参加された方に案内をしてはどうかと思いました。

毎回応募されている方が多いので、託児もしていただけるなら、そういった講座を

聞きに行こうというお母さんも多いと思うので、相互に周知を図るようなことをしていただくと参加率が上がるのではないかと思います。

[松田委員]

親子スポーツ教室の開催日ですが、サッカーやテニスは小学校1年生が対象なので、土曜か日曜ですか。

[間野主事]

サッカーにつきましては土曜日、テニスにつきましては日曜日の開催となっております。

[松田委員]

親子ビクス教室や体操教室については平日になるわけですね。

親子だから保護者と一緒なのですが、この場合、平日開催ということで、親子といながらも、お母さんが子供の面倒を見るということになっていないかというところが気になりました。

保護者の方の性別はどうなっているのでしょうか。

[間野主事]

親子ビクス教室と親子わくわく体操教室につきましては、平日に開催していることもございまして、全て今年度はお母さんがお子様を連れてみえる形となっております。

親子サッカー教室と親子テニス教室につきましては7割から8割程度が、お父さんが連れてみえて、中にはお母さんと一緒に参加しているという状況でございます。

[代田会長]

そうすると、体操教室も土・日にやると、お父さんの参加がふえる可能性もあるわけですね。

そのほかはよろしいですか。

[挙手する者なし]

(2) 第3次小牧市男女共同参画基本計画の推進に係る重点目標の取組内容について

[代田会長]

では、2つ目ですね。

そうしましたら御意見がある箇所について、意見あるいは御質問いただくという形にいたします。

[平林委員]

1ページと2ページですが、会長が冒頭に言われたように、市が目指す男女共同参画のイメージを周知というような表現の中で、どう周知していくかということが大切ということですが、以前、広報関係については、件数というのは大体わかると思うので、それをつけるべきという発言をしたのですが、それが訂正されていなかったということが見受けられました。

それから、以前に、伊藤委員がおっしゃった15ページの保育課のところ、潜在的な待機児童がいるという表現をされたことが記憶に残ってしまっていて、保育課に確認しました。

新しい保育所をつくって待機児童が20人から10人に減るが、31年度はまた新しい保育所もできるのに、どうしてこんなに減らないのかと。やはり、隠れ待機児童ということがあって、なかなかそういう人たちを表に出させることが難しいという表現をされました。また、国の基準があつて、表現の部分を考えているということもありましたが、待機児童が全然変わっていない。こうなるともう少し施設をつくったり、認可保育所、29年度は3施設を公募して選定したりしたということですが、こういったものをもっとふやしていけば、待機児童の数が少なくなるのではないかと。

企業で問題視しているのは従業員不足です。子供を預けて働けるのであれば働いていただきたいと思っていますので、ここに興味を持ったということを御理解していただければと思います。

[代田会長]

何か情報がありますか。

[松永館長]

どうしても1つつくっても、そこに預けられる人が全員ではないということだと思います。職場に近いか、自宅に近くないと預けにくい。待機児童というのは市内満遍なくみえるということからすると、少しずつは解消していきますが、特効薬はなかなかないということが現実にあるかと思っています。

[宮崎委員]

どこの地域で待機児童が多くいるのかということ把握しないと、根本的な原因が出てこないと思います。

そういうことを考えていかないと、むしろ待機児童はふえていくのではないかと思います。

[代田会長]

地域的なミスマッチを解消することが難しいというのはそういったところなのでしょうね。

それでは、そのほか。

[伊熊委員]

22ページですが、女性の消防団が新しくできました。それに対して婦人消防クラブ員を派遣して勉強させるという目標があります。婦人消防、女性消防団、それぞれ役割はあると思うのですが、男女共同参画という考え方からすると、普通の消防団の中に女性が何人ぐらいいて、その女性をふやしていきましようという働きかけのほうがいいのではないかと思います。消防団を1本にした形でまとめたほうがいいのでしょうか。

[高木教育部次長]

消防団というのは男性の消防団で6分団、市内6カ所に分かれて、基地もあり、夜警をしたり、火事場に行ったりしています。そこへ世の流れもあって、女性消防団を結成しました。これは、地域ごとではなく、全市域として1つというものです。

[代田会長]

女性消防団と男性の6消防団とはどういう関係にあるのですか。

[伊熊委員]

同じ消防の位置づけだと思うのですが、消防団というのは消防の署員ではないです。関連性は持っていますが、そこに、女性消防も並列で存在している。

[高木教育部次長]

消防署の署員は、市役所の職員として就職して、消防署の職員となっている人です。消防団というのは、消防署の職員ではなく、志を持って、地域ごとに何十人といいて、いざというときのために消防団として任務をしてもらっています。

婦人消防クラブは、各区、いわゆる自治会の中でもあるところとないところがあるかもしれませんが、それぞれの区の中で、消防本部から依頼や指導をして活動している地域ごとの団体です。

そして新たに、女性だけの消防団というものを小牧市で1つつくり、この方々は、婦人消防クラブとは別で、防災訓練や大きな行事において、消防団の活動をPRするというような活動をしています。

すべて消防という組織ではありますが、別もので、役割もそれぞれ違うということです。

〔伊熊委員〕

効率化も含めて統一したほうがいいのではないかと思います。

〔松田委員〕

お話を聞いていると、婦人消防クラブはボランティアという形だと思うのですが。

〔高木教育部次長〕

今、おっしゃられたとおり地域の婦人消防クラブは、地域ごとにあるものなのでボランティアだと思います。女性消防団は、立ち位置としてはいわゆる6分団ある従来からの消防団と同じ扱いである準公務員になると思うのですが。

〔松田委員〕

その立ち位置があるので、やっていることは似ているかもしれないですが、片や準公務員、片やボランティアとなると、統一ということは難しいのではないのでしょうか。

〔伊熊委員〕

そうだと思います。

22ページを見ると、婦人消防クラブ員を派遣すると書いている。新しく女性消防団ができたので、勉強するために女性消防団を派遣する方がいいのではないかとということです。

[高木教育部次長]

ボランティアの方々を女性消防クラブ指導者科に派遣するよりも、団として結成された女性消防団の方を派遣したほうがより実があるのではないかということですね。

済みません、消防の職員がいないので、若干想像の話ばかりで、事実と違いがあるかもしれません。

[代田会長]

そのほか何か。

[乙部副会長]

9ページの男女間の暴力の根絶のところですが、ほかの目標のところでもそうですが、これを見ると数値目標や基準値や実績が記載されておらず、計画案も29年から一緒ということは、余り相談がないということなのか、余り重視されていないのか、どちらなのでしょう。

[間野主事]

前回の会議の資料になるのですが、目標の進捗状況を図る中で、福祉総務課から「8月末までに3件の相談を受け付けたが、早急に一時保護を実施するほどの急迫した状態ではなかったため、金銭の扶助等には至っていない」と報告を受けております。

担当課にどのような考えがあるかについては、お答えができませんが、状況としてはそのような形となっております。

[代田会長]

これは数値目標も難しいですね。言葉で書くしかない。

保護の要請に対して必ず必要な保護を実施するといった、このような書き方しかできないですね。

[伊熊委員]

そうだと思います。

ですが、目標が書かれていないところはやはり何か目標を書く必要があると思います。身動きがとれないので。

〔近藤委員〕

目標というのは、大事なことだと思います、
この内容を見ていると要らないと、今でも思います
目標と掲げられている以上は、その中身が大事だと思います。

〔代田会長〕

最終的にこういう状態にしたいということがあり、それに向かっていくに当たって、
数値化できる部分は数値化して書いてもらったほうがいいのではないかと思います。

〔伊熊委員〕

最終目標はきっとあると思います。
また、経過的な取り組みでも目標値があると思います。
今年度はその最終目標に向かってここだけは、という取り組み方をしないと、結局
何をしていたかわからずに終わってしまう可能性があると思いますので、そのような
書き方をしていただければ良いと思います。

〔平林委員〕

重点目標を決めて、それをやってみようというような形だったと思うので、
今回出てきたもの全て重点目標で、それを各課から出していただいたと私は思ってい
ますので、その目標に向かって取り組んでいけば良いと思います。

目標を推移していくときには方法論がいろいろあって、その中で何が一番いいか
ということにマッチングすれば、その目標を達成するということになると思うので、そ
こを決めてほしいと思います。

〔宮崎委員〕

数値目標というのは、形がないもの、状態で見るといえるものというのに設定するこ
とは難しいですが、よく言われるのは、人の評価ということはありません。

この中で明確に言えるのは、今どういう状態なのかということ各取り組み事項の
中で明確にして、それをどの状態まで持っていきたいかということ明確にしないと
いけないと思います。

〔伊熊委員〕

まだそこまで到達していなければ、今期はここまでは把握するという事は書いて

ほしいです。

〔大鹿委員〕

数値化できない、具体策が立てられないような目標こそ会長が最初に言われた、イメージを周知するというような形で捉えていくことが大切かもしれないということを改めて思いました。

〔代田会長〕

そうですね。

ただ3ページの行政経営課、平成29年度の取り組み内容のところに小牧市女性活躍推進のための特定事業主行動計画というのを作成しているので、そこに細かい内容を盛り込んでいるはずなので、もう少し、行政経営課についてはしっかり記述をしてほしいという気がします。

そのほか何か。

〔松田委員〕

課によって、温度差があるように感じました。

〔高木教育部次長〕

時代が変わってきて、費用対効果や目標値をきっちりお示ししながら行政運営をしていくという流れになってきていると思います。

ただ、行政の中では様々な仕事があるので、どうしても同じシートで比べると、差が出てくることはあると思いますので、意識を持って書いてもらうことが大事かと思っています。

〔代田会長〕

年度ごとの取り組み内容を充実させてほしいですね。

行政が目標を立てるという形は、どうしてもやらざるを得ない状況になっています。私も県立大学なので、大学の目標があって、計画を着実に進めていかないといけないんです。

それでは、このところはよろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

5 その他

〔代田会長〕

そうでしたら、その他ですね。

〔松永館長〕

本日、机上に配付しております平成29年度「はばたけ未来へ 自分らしく生きていこう」アンケート集計結果ですが、それぞれ市内の小学校5年生を対象に「はばたけ未来へ」という冊子を使ったアンケートの集計が出ましたので、資料としてお手元に配付させていただきましたので、参考にさせていただきたいと思います。

その結果をもとに見直すところは今後見直していきたいと考えております。

それから、国際女性デー名画鑑賞会を、3月4日にまなび創造館あさひホールにおいて、午前・午後上映いたします。チラシと入場整理券を添付しておりますので、都合のつく委員の方、ぜひ見に来ていただきたいと思います。

もう一点、女性センターのPRとして「かすたねっと」、今回50号として、まなび創造館の施設の紹介を載せております。御参考にさせていただきたいと思います。

それでは、大変長時間にわたりまして御審議をいただきましてありがとうございました。

本日いただきました御意見につきましては、それぞれ担当課へも伝えたいと思います。

これをもちまして第3回小牧市男女共同参画審議会を終了いたします。どうもありがとうございました。